

都市再生整備計画

いくとらみち えきしゅうへん
幾寅道の駅周辺地区

第1回変更

ほっかいどう みなみふらのちょう
北海道 南富良野町

令和5年2月

事業名	確認
都市構造再編集中支援事業	<input type="checkbox"/>
都市再生整備計画事業(社会資本整備総合交付金)	<input type="checkbox"/>
都市再生整備計画事業(防災・安全交付金)	<input checked="" type="checkbox"/>
まちなかウォークアブル推進事業	<input type="checkbox"/>

都道府県名	北海道	市町村名	みなみからのちよう 南富良野町	地区名	いくとらみち さいしゅうへんちく 幾寅道の駅周辺地区	面積	20.9 ha
計画期間	令和 4 年度 ~ 令和 6 年度	交付期間	令和 4 年度 ~ 令和 6 年度				

目標
 大目標: 道の駅周辺への賑わい拠点の形成による地域活性化と強靱化の推進
 目標1: 地方創生の小さな拠点づくりとして道の駅周辺を活用
 目標2: 交通結節機能の強化と定住環境の維持、構築
 目標3: 自主防災機能の拡充に向けた防災拠点化の推進

目標設定の根拠
 まちづくりの経緯及び現況
 南富良野町では「第5次総合計画」(平成25年度～令和4年度)主要施策の中で「道の駅」周辺の整備を進めることとしており、整備にあたり令和2年1月には重点道の駅として国土交通大臣から選定を受け、令和3年3月には道の駅の賑わい拠点整備に向けた地域再生計画を策定し、「道の駅」と本町の強みでもある「自然体験型観光(アウトドア)」を活用したまちづくりへの取り組みを重点的に進めているところである。
 また、観光庁に認定された富良野・美瑛観光圏整備計画(平成30年度～令和4年度)においては、滞在促進地区として本町アウトドアフィールドの中心エリアであり道の駅を有している幾寅地区を指定、同計画内の観光圏整備事業における市町村の役割として空間整備、人材育成、雇用、道路環境や住民意識の醸成を掲げていることから、同計画においても道の駅再編に向けた様々な取り組みを進めることとしている。
 当道の駅周辺地区(以下、「当地区」という。)は、本町で最も多い地域人口を有する幾寅地区市街地の北側玄関口に位置し、北海道のほぼ中心でもあることから道内主要3都市の札幌・旭川・帯広に向かう中継点としての役割も担っている。今後、当地区には地域住民、道路利用者、観光客など、多くの人々が行き交う空間となることを計画し整備を進めている複合拠点(道の駅を核とした賑わいの拠点施設)にて賑わいを創出し、人口減少、地域振興の解決を図るための地方創生の拠点としての活用を目指している。
 町の第2期地域総合戦略では小さな拠点づくりを目標とした商工業の推進を掲げ、取り組みとして道の駅の改修や周辺施設の再編整備などを計画、また、防災力強化としての町地域強靱化計画では自主防災機能の強化と防災拠点の整備を目標に、当道の駅が上川と十勝を結ぶ国道38号の中心で且つ、狩勝峠麓の立地から、災害時における防災拠点としての整備も目指しているところである。

課題
 ・地域社会の存続に向け一刻も早く人口減少の流れに歯止めをかける具体策を講じなければならない状況にある。
 ・道の駅周辺において商業施設及び観光拠点施設の整備を図り、小さな拠点づくりを目指すことが求められている。
 ・国内有数の体験型観光のフィールドとして、観光客の多様化に対応した情報発信拠点の整備が求められている。
 ・交通結節機能を強化し、移住・定住できる環境の構築が求められている。
 ・地域の強靱化に向けた自主防災機能の活性化、総合的な防災拠点整備が求められている。

将来ビジョン(中長期)
 ①富良野・美瑛観光圏整備計画(2018-2022)
 ・コンシェルジュ機能の充実
 ・二次交通のエンターテインメント化による多様化
 ・人材育成と住民に対する意識啓蒙
 ・ブランド力の強化
 ・至福の空間(空間整備)と住んでよしの地域づくり
 ②南富良野町第5次総合計画(2013-2022)(平成24年度策定)
 ・観光発信力の強化～観光情報の一元化とホームページ等を活用した効果的な観光メニューや観光ポイントのPR
 ・新たな観光資源の創造～観光と商業などの複合施設の整備の検討
 ・観光施設の整備～「道の駅」周辺整備の検討
 ・道路～町道の整備
 ・公共交通網～民間高速バスの維持・充実、町営循環バスの維持・充実
 ・子育て支援～施設環境等の充実
 ③南富良野町地域総合戦略【第2期】(2020-2024)(令和2年度策定)
 ・次代へつなぐ活力ある産業のまちづくり～小さな拠点づくりを目指した商工業の推進、自然環境を生かした観光産業の推進
 ・幸せに暮らせる健康と福祉のまちづくり～子育て支援の推進
 ・安全・安心・快適なまちづくり～移住・定住に向けた取り組みの推進
 ④南富良野町地域強靱化計画(2020-2024)(令和元年度策定)
 ・町自らの強靱化の達成
 ・国・北海道全体の強靱化への貢献の達成

都市のコンパクト化の方針
 【南富良野町のコンパクト化の方針と本計画の関係】
 ・本町のコンパクト化の方針については、北海道におけるコンパクトなまちづくりに向けた基本方針に準じて、まちなかの賑わいづくりとしての道の駅周辺の賑わい創出、災害に強いまちづくりとしての公園・緑地等の都市防災機能の充実及び防災に資する施設整備、持続可能な地域公共交通ネットワークの形成を目指すこととしており、本計画で実施する事業との齟齬はない。

防災拠点整備方針
 ・暴風雪や豪雪による交通途絶の場合など、様々な災害時でも地域住民、公共交通利用者、道路利用者の一時受入・退避対応可能な施設としての充実を図る。
 ・道内外において大規模な災害が発生した際の支援に対応できるよう、備蓄、集配、荷捌き、駐車・駐機機能などを有する総合的かつ空陸対応可能な広域流通拠点としての整備を進める。
 ・長期的または広範囲なエネルギー供給の停止にも対応可能なエネルギーシステムの構築を図る。

目標を定量化する指標

指標	単位	定義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
道の駅利用者の拡大	人/年	道の駅利用者数	道の駅エリアの再編整備を行い、地域住民、道路利用者、観光客による賑わいの創出、交流人口を増加させる。 従前値となるR元年度の道の駅入込数に隣接リゾートエリアである富良野・トマム(占冠村)、サホロ(新得町)のR元年度入込数から3%の誘客を加えた値を目標値とする。	283,000人/年	R元年度	400,000人/年	R7年度
道の駅エリアにおける雇用者数	人/年	道の駅エリアの再編整備に伴う雇用者数	道の駅エリアの再編整備に伴い、新たな複合施設等の開業により地区内の雇用者数を10人から23人に増加させることを目標とする。	10人/年	R元年度	23人/年	R7年度
自主防災組織カバー率の向上	%	自主防災組織カバー率	道の駅エリアの防災拠点化の推進に伴う自主防災組織の結成推進を図る。 当該地区における自主防災組織の結成により、町内全域における自主防災組織カバー率の10%向上を目標とする。	0%	R元年度	10%	R7年度

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>【地方創生の小さな拠点づくりとしての道の駅周辺の活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> 道の駅再編整備に伴い、利用者の利便性向上に向けた駐車場の全面改修、24時間対応多目的トイレの改築を実施する。 道の駅を核としたまちの賑わい拠点施設や民間事業者による特化型ホテル整備事業との連携による道の駅周辺エリアの魅力向上を図る。 	<p>【基幹事業】 (地域生活基盤施設) 駐車場改修事業</p> <p>【基幹事業】 (高質空間形成施設) 24時間対応多目的トイレ改築事業</p> <p>【提案事業】 (地域創造支援事業) 授乳室等整備事業</p> <p>【関連事業】 道の駅を核としたまちの賑わい拠点施設整備事業</p> <p>【関連事業】 トリップベース道の駅プロジェクトによる宿泊特化型ホテル整備事業</p>
<p>【交通結節機能の強化と定住環境の維持、構築】</p> <ul style="list-style-type: none"> 南富良野の魅力凝縮したブランド発信拠点、インバウンドを含めた顧客層の多様化に対応可能な情報発信機能整備として、観光交流センターの整備を図るとともに、地域を取り巻く公共交通網の変化を踏まえた公共交通拠点としての役割も担う。 子育て世代や様々な来訪者の交流拠点としての役割も備えた休憩機能を確保するため、道の駅エリア内に公園を整備する。 地域住民の道の駅エリアへの周遊性並びに安全性向上に向けた周辺道路の改良事業を実施する。 	<p>【基幹事業】 (既存建造物活用事業) 観光交流センター改修事業</p> <p>【基幹事業】 (道路) 町道幾寅市街地東2丁目線改良事業、町道工業団地線改良事業</p> <p>【基幹事業】 (公園) (仮称) 道の駅公園整備事業</p> <p>【提案事業】 (地域創造支援事業) RVパーク等整備事業</p>
<p>【自主防災機能の拡充に向けた防災拠点化の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域の強靱化に向けた自主防災機能の活性化、総合的な防災拠点づくりに向け、避難所受入人員の拡大をはじめとした避難施設の拡充を行う。 	<p>【基幹事業】 (既存建造物活用事業) 観光交流センター改修事業</p> <p>【関連事業】 道の駅を核としたまちの賑わい拠点施設整備事業</p> <p>【関連事業】 (仮称) 空知川河川防災ステーション整備事業</p> <p>【関連事業】 防災連続盛土整備事業</p>
<p>その他</p>	
<p>【道の駅の再編整備】</p> <p>「道の駅南ふらの」は、2020年1月24日に国土交通省より、地方創生や地域活性化の拠点の形成等を目指した「重点道の駅」として選定されており、以下の項目に関し重点的に進めていく</p> <ul style="list-style-type: none"> 国内有数の体験型フィールドとして、シーニックバイウェイとも連携し、インバウンドを含めた顧客層の多様化に対応した情報発信拠点の整備 都市間バスやデマンドバスの交通結節機能を強化し、定住環境維持に寄与 おむつや液体ミルクの備蓄により、子育て世代も安心の防災拠点整備 <p>【地域再生計画：道の駅を核としたまちの賑わい拠点施設整備事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和3年3月策定 計画概要 <ul style="list-style-type: none"> 人口減少による地域経済の縮小や災害からの復興を目指すため、南富良野町の強みである観光産業を促進し、域内消費の拡大が期待できる滞在型観光に向けた取り組みの実施に向け、道の駅をアウトドア観光の振興と生活機能の維持を図る拠点として機能を見直し、道の駅に道路利用者(通過客)と観光客と地域住民の3つの消費を取り込み、観光で稼ぎ、地域経済活性化により地域振興の解決を図る地方創生の拠点として道の駅を活用し、地域経済活性化と雇用創出等地域内外への高い経済的波及効果を図る。 <p>【南富良野町地域強靱化計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和2年3月策定 強靱化の目標 <ol style="list-style-type: none"> 大規模自然災害から町民の生命・財産と町の社会経済システムを守るとともに、被災時においても被害を局限し、迅速に復旧・復興し得る施策の推進 南富良野町の特性と強みを最大限発揮し得る施策の推進と基盤等の整備 南富良野町の地域活性化と持続的な成長を促進し得る施策の推進 <p>【石狩川水系空知川河川整備計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成30年3月変更 河川整備の実施に関する事項 <ul style="list-style-type: none"> 洪水等による災害の発生の防止又は軽減に関する事項 <ul style="list-style-type: none"> 広域防災対策 <ul style="list-style-type: none"> 施設の能力を上回る洪水を想定した対策 洪水氾濫被害軽減対策 危機管理型ハード対策及び樋門操作の遠隔化・自動化 河川防災ステーション等の整備 <p>【その他官民協働の取り組み事例】</p> <ul style="list-style-type: none"> H28.10に民間事業者も含めた南富良野町地域協議会を設立、南富良野町地域総合戦略に基づいた道の駅再編整備の検討を進めた。(H28.10～H30.3、計15回開催) H29.8に民間事業者も含めた町議会の検討組織(南富良野町議会総合交通体系等調査特別委員会)を設立し、道の駅エリアの再編整備への取り組み状況報告、意見徴取を行い整備検討を進めた。(H29.11、H30.4、H30.10、計3回開催) H30.12に町内関係機関をもって組織した「道の駅を核としたまちの賑わい創出事業運営会議」を設立、本町が有する観光資源や人的資源を活用し、道の駅をアウトドア体験観光の推進拠点として観光客の誘客を図り賑わいを創出させ、将来的に事業収益により自立して自走できる仕組みを構築することを検討。(H31.2、H31.3、R2.3、計3回開催) 地域住民への意見徴取、周知 <ul style="list-style-type: none"> H31.2.12～3.8意見募集実施(町広報及びHP)で16件の意見が提出された。 R1.8.13取り組み状況報告(町広報及びHP) 	

幾寅道の駅周辺地区(北海道南富良野町)	面積	20.9 ha	区域	北海道南富良野町幾寅地区の一部
---------------------	----	---------	----	-----------------

